



キリスト教神学入門

山崎チャペル内一宮基督教研究所

安黒 務

E-mail: aguro@mth.biglobe.ne.jp

<http://www.aguro.jp/>

キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第十二部 終末論

- 56.終末論導入
 - 57.個人終末論
 - 58.再臨とその結果
 - 59.千年王国と大患難
 - 60.最後の状態
 - 結論
- 第38章 導入的事柄と個人終末論
 - 第39章 再臨とその結果
 - 第40章 千年王国と大患難の見方
 - 第41章 最後の状態
 - 結論

第40章 千年王国と大患難の見方

1. 千年王国の見方

1. 後千年王国
2. 前千年王国
3. 無千年王国
4. その問題の解決

2. 大患難の見方

1. 大患難前再臨説
2. 大患難後再臨説
3. 中間的立場
4. その問題の解決

1. 千年王国の見方

1. 後千年王国

1. 福音宣教の成功裏のうちの進展
2. 社会情勢への関与と進歩の時代
3. 個人的回心より社会的変革が王国のしるし
4. 未来より今ここにある現在の現実
5. 文字通りの千年ではなく拡張された期間

1. 千年王国の見方

2. 前千年王国

1. 一千年の地上支配
2. 千年至福説
3. 19世紀中頃より流行
4. 鍵句: 黙20:4-6
5. エゼサン二つの復活
6. 大変動の出来事
7. 世界大の平和
8. 再臨前—最悪の状態
9. ディスペンセーション主義?
10. 聖書の文字通り解釈?
11. 啓示の連続的段階?
12. イスラエルと教会の相違?

1. 千年王国の見方

3. 無千年王国

1. 再臨後、ただちに最後の審判
2. 「一千年」は象徴的に
3. 「後千年」と「無千年」—単純に区別されず
4. 黙20章の扱い—黙示録全体を考慮に
5. 黙示録は全体として「象徴的」
6. 何を象徴—聖なる数「七」と「三」は結びつき完全数「十」、3乗されて全体的な完全の「千」
7. 主要な解釈学的問題—「二つの復活」
8. 第一の復活「霊的」、第二の復活「肉体的」—一貫性の欠如
9. 預言—未来的・文字通りより、歴史的・象徴的に解釈
10. 再臨のしるしに対する熱心な研究なされない

1. 千年王国の見方

4. その問題の解決

1. より困難の少ない見方を見出す努力
2. 福音宣教における楽観主義 — 不適切
3. 再臨前に信仰が冷める
4. 教理は単一の箇所可依拠すべきではない
5. 前千年王国説 — 聖書により適合
6. 時間的順序、二段階の復活 — より適切

2. 大患難の見方

1. 大患難前再臨説

1. 歴史上かつてないほどの大患難
2. 教会の携挙－空中再臨
3. 二つの再臨、三つの復活
4. 患難から教会を解放すること
5. 選民が患難の期間に存在する: マタイ24章
6. 次の瞬間にも再臨が起こりうる
7. 目を覚ましているように
8. 次の出来事－再臨＝祝福された望み

2. 大患難の見方

2. 大患難後再臨説

1. 再臨－大患難が終わるまで起こらない
2. 最近の出来事を文字通りに解釈しない
3. 「選民」という用語＝「信者」を意味
4. 「神の怒り」と「大患難」との相違
5. 患難は、世紀を通じて「教会の経験」
6. 「エクフューゴー」＝その只中において守られる
7. 「アパンテス」＝会い、伴ってパーティに歓迎する
8. ひとつの再臨、二つの復活
9. 大患難の只中で保護し、保たれるという確信

2. 大患難の見方

3. 中間的立場

- 多くの調停的立場
 1. 大患難中期再臨説
 2. 部分的携拳の立場
 3. 切迫した大患難後再臨説
 - どれも多数の支持者得ていない
-

2. 大患難の見方

4. その問題の解決

1. 大患難前再臨説—不自然、聖書支持せず
 - 再臨の二段階、三つの復活、イスラエルと教会の鋭い分離に問題あり
2. 大患難後再臨説—より適切な解釈が可能
 - 選民が患難の中にあり、過酷さから保護
3. 聖書の全般的な趣旨—大患難後再臨説に適合
 - 災難に打ち勝つ力の約束
4. 大患難後再臨説の課題
 - 千年王国に関する神学的理由が相対的に困難に